

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校 東京自動車大学校	平成2年3月23日	小倉 基宏	〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3 (電話) 03-3601-2535																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 小倉学園	昭和56年12月24日	小倉 基義	〒379-2215 群馬県伊勢崎市赤堀今井町1-581 (電話) 0270-62-0167																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	自動車整備専門課程	自動車整備科 1級整備士コース 後期課程	平成27年文部科学省 告示第13号																				
学科の目的	実践かつ専門的な職業教育をおこない、関係企業・団体等のニーズを反映した自動車整備技術や知識を修得させる。また、社会貢献ができる人間性豊かで優秀な自動車整備士を育成することを目的とする。																						
認定年月日	平成29年2月28日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼	2137時間	623時間	37.8時間	1330.2時間	137.6時間	8.4時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
240人	131人	5人	12人	4人	16人																		
学期制度	■1学期: 4月1日 ~ 7月31日 ■2学期: 9月1日 ~ 12月25日 ■3学期: 1月8日 ~ 3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、実習レポート等 100点満点中60点以上合格																		
長期休み	■学年始: 4月1日 ~ 4月7日 ■夏季: 8月1日 ~ 8月31日 ■冬季: 12月26日 ~ 1月7日 ■学年末: 3月21日 ~ 3月31日			卒業・進級条件	全ての教科の成績が合格していること。 国土交通省で定められた教育時間数を履修していること。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・担任、学年主任による個別面談 ・成績下位者への補講授業実施			課外活動	■課外活動の種類 レクリエーション実行委員 学園祭実行委員 特待生による学内ボランティア活動 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 自動車ディーラー、メーカー、損害保険会社 ■就職指導内容 担任、進路指導課教員による個別相談、面接指導を実施することで、学生第一志望企業への早期内定獲得。 ■卒業生数 57 人 ■就職希望者数 44 人 ■就職者数 44 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 77.1 % ■その他 ・進学者数: 13人 ・自己開拓: 0人 (令和4年度卒業生に関する 令和5年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>57人</td> <td>55人</td> </tr> <tr> <td>2級2輪自動車整備士</td> <td>②</td> <td>62人</td> <td>62人</td> </tr> <tr> <td>2級ジャン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>32人</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	1級小型自動車整備士	②	57人	55人	2級2輪自動車整備士	②	62人	62人	2級ジャン自動車整備士	②	32人	26人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
1級小型自動車整備士	②	57人	55人																				
2級2輪自動車整備士	②	62人	62人																				
2級ジャン自動車整備士	②	32人	26人																				
中途退学の現状	■中途退学者 5名 令和4年4月1日時点において、在学者132名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者127名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、就職 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任、学年主任等による早期問題発見とカウンセリング実施。			■中退率 3.8%																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※特待生制度、留学生給付金制度、一人暮らし応援サポート制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科のホームページURL	http://www.taus.ac.jp																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は、自動車に関する知識・技術を修得した確かな人格を有する自動車整備士養成に努め、国内自動車販売業(自動車ディーラー)のサービス要員を中心に広く自動車関連産業に有為な人財の育成・輩出を通じ活力ある社会づくりに貢献してきた。今後もその社会的使命を踏まえて更なる教育の質保証・向上を図るため、関係企業・団体、教育有識者の協力を得た教育課程編成委員会の設置・活動を通じ、適切かつ効果的な教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は別添規程のとおり、校長の諮問機関の委員会として機能し、校長に報告された審議内容等は、必要に応じて管理職部長会議などでの議論も踏まえ校長が決裁する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
國分 秀貴	いすゞ自動車首都圏(株)	R4.5.1～R6.4.30	③
出井 裕	日本大学理工学部 航空宇宙工学科	R4.5.1～R6.4.30	②
中村 真	日産自動車販売(株)	R4.5.1～R6.4.30	③
藤田 幸司	東京自動車大学校 校長代行	R4.5.1～R6.4.30	
三田寺 秀高	東京自動車大学校 副校長	R4.5.1～R6.4.30	
高橋 章	東京自動車大学校 事務長	R4.5.1～R6.4.30	
庄司 達哉	東京自動車大学校 教務部長	R4.5.1～R6.4.30	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、10月)

(開催日時(実績))

令和5年8月30日開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

■意見:

自動車の技術が進歩していく中で、自動車整備専門学校での教育内容も変えていく必要がある。しかし、自動車の基本は変わらないので、基本的な内容は学校でしっかりと教育してほしい。古くなった内容を減らし新しいことを入れていく際には、減らす内容を慎重に吟味してほしい。取得する資格などについても同様で、必修で受験していたものを希望制に変更したりするケースも出てくると思われるが、資格は一生ものなので、学生のうちにできるだけたくさん取得させてほしい。

◆活用状況

今後、自動車整備士国家試験制度の改定が行われるため、それを見据えてカリキュラムを検討していく予定である。資格取得については、多くの資格を問わせること目標としていく。合格した成功体験を積み重ねることで、勉強意欲の向上も見込まれるため、取りやすい資格からチャレンジさせレベルアップを図っていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

自動車業界の人材ニーズに従い、即戦力となれる人材を育てるために、企業と連携を密にして基本作業から、さらにステップアップした新技術などの教育を行う。また、現場での作業に必要とされる、安全作業や時間管理ということも意識した実習を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教務課責任者と教科担当教員とプリンス東京の派遣講師が実習前に打ち合わせを行い、実習内容や学修成果の評価指標等について定める。実習授業においては、担当教員が日常的な指導をしつつ企業からの講師が専門性の高い技術的な指導を行うなど、2名が連携を取りながら授業を展開していく。実習授業の最後に実技試験を行い、企業講師の評価を踏まえ担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
エンジン整備	エンジン脱着作業と各部位のオーバーホールを行う	日産東京販売株式会社
シャシ制御 I (AT/ABS)	ABS、ATに関する実際の制御方法を学ぶ	日産東京販売株式会社
定期点検整備	インターンシップで学んだ実践的な整備作業において、個々の技術目標を新たに設け、実践的な整備作業の技術向上を狙う	日産東京販売株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校教職員研修規定により、教職員が、職務を円滑に遂行するために必要な能力、資質の向上を図るために研修計画を策定し、実施する。研修を行うに当たっては、関連企業・団体等と連携し、専門分野の知識、技術等の向上を図るとともに、授業および学生指導に対する指導力等の向上を図るものとする。実施においては、校内研修、校外研修、自己啓発など企業と連携した内容を盛り込み組織的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ◆海外ブランド戦略および技術講習 SKYグループ主催 6月12日 14:30～16:00 本校312実習場 全教員
- ◆日産技術講習会 日産自動車(株)主催 8月4日 9:00～16:30 追浜GRNDRIVE 教員1名 日産先進技術に関する体感講習
- ◆新技術・車両診断研修会 全国自動車大学校専門学校協会主催 8月2日～5日 本校312実習場 教員1名
- ◆ボルボEV研修会 ボルボ・カー・ジャパン(株)主催 10月17日 16:30～17:30 本校312実習場 全教員

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ◆専修学校教員教職課程研修 東専各協主催 6月10日～11月11日(全25日間) 18:30～20:00 教員2名参加
- ◆教員実践研修 東専各協主催 6月23日～8月25日(全6日間) 教員1名参加
- ◆教員夏季研修 JAMCA主催 8月16日～8月19日(全4日間) 教員1名参加

(2) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ◆各メーカー主催の技術講習会に参加予定

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ◆専修学校教員教職課程研修 東専各協主催に教員1名参加予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校教育法及び学校教育法施行規則に基づき、校内自己点検評価委員会が行った評価の結果について、評価及び結果の公表を行うために、学校関係者評価委員会を設置し、委員会は、自己評価委員会が行った評価について評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、関係者の理解推進・連携協力による学校運営の改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育人材等
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	地域との連携
(11) 国際交流	無し

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者から指摘のあった「コミュニケーション能力向上」に関し、実習授業において積極的なロープレを導入して展開した。また、「教員の指導力向上」を目的に今年度も2名の教員に東京都専修学校教員教職課程研修に参加させ、学生カウンセリングや授業に関する実践的技術知識向上を図った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
荒瀬 智子	トヨタモビリティ東京(株)人事業務室担当次長	R4.5.1～R6.4.30	企業等委員
西島 大貴	日産東京販売(株)人事部次長	R4.5.1～R6.4.30	企業等委員
木元 聡志	(株)トヨタテック 取締役	R4.5.1～R6.4.30	企業等委員
鈴木 学	ボディショップ スズキ社長	R4.5.1～R6.4.30	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページにおいて特段の事情がない限り毎年9月1日までに公表する。

URL:<https://www.taus.ac.jp/quickcode/taus/file/kihon2.pdf>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対して、学校関係者評価委員による会議とは別に、校長代行・幹部教員が各企業別に年1・2回の会合を持ち意見交換を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	無し
(11) その他	無し

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ <http://www.taus.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科 1級整備士コース後期課程) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンジン理論	筒内直接噴射エンジンの構造と作動を理解するとともに、自動車用エンジンがこれまでどのような経緯で開発、実用化されてきたか、各メーカーが市販化したエンジンを例に紹介する。	1 ①	9.8		○			○		○		
○			自動車工学	機械工学、材料力学、機構学、物理、熱力学、流体力学等の理論を用いて自動車に採用されている理論を中心に講義を行い、基礎理論を理解させると共に演習も行う。	1 ①	12.6		○	△		○		○		
○			E V	電気自動車の構造・作動・整備及び高電圧部位の取扱い注意事項についてまた、最新E V事情についても学ぶ。	1 ①	9.8		○			○		○		
○			燃焼・潤滑理論	燃料と燃焼に関する基礎理論と現在進められている燃料の改善状況を解説し燃料を取り巻く問題点を解説する。	1 ①	9.8		○			○		○		
○			エンジニアリング・グラフィック	自動車に関連した図面や特製図への理解力を高めることを目的に自動車性能線図等の作成を行う。	1 ①	9.8		○	△		○		○		
○			エンジン電子制御 I	各センサによるエンジン制御方法と故障原因探求方法を理論的に勝つ実戦的な手法を用いて解説し、理解させることを目的としている。	1 ①	30.8		○			○		○		
○			ジーゼル・エンジン整備	小型ジーゼルエンジンのコモンレールシステムについて構造・機能・作動・整備・故障診断を解説する。	1 ①	9.8		○			○		○		
合計					7科目	92.4単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全ての教科に合格していること。1, 2年次の履修時間(学科280時間以上、実習465時間以上、実務実習750時間以上、総時間数1800時間以上)を満たしていること。授業開始にあたり、出席を調査し出席簿に記録する。遅刻は当該授業を欠席とする。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科 1級整備士コース後期課程) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			シャシ電子制御 I	A T、C V Tに関する基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ①	30.8		○			○		○		
○			電子整備機器	デジタルマルチメータ、オシロスコープ、の使用方法を理解する。	1 ①	15.4		○			○		○		
○			産業研究 I	自動車業界の第一線で活躍するゲストスピーカーを招聘し、現代のマネジメント、自動車業界の動きの解説を行う。	1 ②	18.2		○			○			○	
○			マーケティング戦略	実践的な自動車業界の企画、販売、プレゼンテーション、市場調査などを具体例を挙げながら顧客の行動原理とマーケティング原理を解説する。	1 ② ③	22.4		○			○			○	
○			高分子材料	高分子とは何かを合成、構造、物性、成形性から紹介し、高性能化とリサイクル化の開発指針を与える。	1 ②	14.0		○			○			○	
○			先進材料	アルミニウムの特性と実際の使用例を挙げて解説する。	1 ②	14.0		○			○			○	
○			体育実技	自動車整備士にとって必要不可欠な基礎体力の向上と団体スポーツを通して組織の中で個の力の発揮を促す体験を行う。	1 ②	8.4				○		○	○		
○			M C高度技術	各種モジュールの比較を行いながら、二輪車の整備士として必要な知識を養成する。	1 ②	23.8		○			○		○		
合計					8科目		147単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全ての教科に合格していること。1, 2年次の履修時間(学科280時間以上、実習465時間以上、実務実習750時間以上、総時間数1800時間以上)を満たしていること。授業開始にあたり、出席を調査し出席簿に記録する。遅刻は当該授業を欠席とする。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科 1級整備士コース後期課程) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			エンジン電子制御Ⅱ	各センサによるエンジン制御方法と故障原因探求方法を理論的に勝つ実践的な手法を用いて解説し、理解させることを目的としている。	1 ②	33.6		○			○		○		
○			CNG	圧縮天然ガスを燃料とするCNG自動車のエンジン構造及び制御また、整備方法について学ぶ。	1 ②	12.6		○			○		○		
○			シャシ電子制御Ⅱ	ABS、VSCSに関する基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ②	33.6		○			○		○		
○			シャシ電子制御Ⅲ	EPSに関する基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ②	15.4		○			○		○		
○			電装構造Ⅰ	電気計測、エアバッグ、オートエアコンに関する基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ②	18.2		○			○		○		
○			エンジンTS	OBD、車載ダイアグノシス機能などを駆使してエンジンの電子制御装置における高度診断作業を学ぶ。	1 ②	15.4		○			○		○		
○			環境・安全	自動車と自動車整備を取り巻く地球規模の環境保全のあり方と整備に関する安全作業を理論的に学ぶ。	1 ②	12.6		○			○		○		
○			店舗経営	自動車販売会社の経営理念を具体的に解説し、自動車ディーラーが求められる業務内容について検討する。また、サービス業務とセールス業務の関連から顧客満足度の実際について学ぶ。	1 ③	8.4		○			○		○		
○			電子回路演習	自動車の基本的な回路を分かりやすく解説する。トランジスタ、ダイオード、定電圧回路、整流回路、論理回路などの制作と実験(計測)なども行う。	1 ③	15.4			○		○		○		
合計					9科目		165.2単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全ての教科に合格していること。1, 2年次の履修時間(学科280時間以上、実習465時間以上、実務実習750時間以上、総時間数1800時間以上)を満たしていること。授業開始にあたり、出席を調査し出席簿に記録する。遅刻は当該授業を欠席とする。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科 1級整備士コース後期課程) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			電装構造Ⅱ	エアバッグ、プリテンショナーシートベルトに関する構造、機能、点検の基礎理論と故障探究に関する手法を解説し理解させることを目的とする。	1 ③	15.4		○			○		○		
○			ハイブリッド・ビークル	新しい形のパワーモジュールの構成と制御システムについて学び、今後ますます増加するハイブリッド・カー技術に対応できる力を養う。	1 ③	9.8		○			○		○		
○			検査	道路運送車両の保安基準に基づいた各検査基準とその良否の判断を具体的事例より理解させる。	1 ③	9.8		○			○		○		
○			法規	道路運送車両の保安基準に基づいた各検査基準とその良否の判断を具体的事例より理解させる。	1 ③	12.6		○			○		○		
○			卒業研究	自動車技術、整備手法、教育に関する研究を指導教員の指導の元に研究を行い、自動車整備科で4年間学んだ集大成としてその成果を発表する。	2 ②	22.4				○	○		○		
○			自動車材料	市販車両の軽量材料の使用例を解説し従来の車両との比較を行う。	2 ①	7.0		○			○		○		
○			大型シャシ	大型車の電子制御式サスペンション、セミオートマチック、ABS等の構造・機能・作動・整備・故障診断を解説する。	2 ①	7.0		○			○		○		
○			シャシTS	OBD、車載ダイアグノシス機能などを駆使してシャシの電子制御装置における高度診断作業を学ぶ。	2 ①	7.0		○			○		○		
○			振動解析	自動車整備において難度の高いNVH関連の基礎理論とテストを用いた故障探究方法と効率のよい故障解決法を理解させる。	2 ①	12.6		○			○		○		
合計					9科目		103.6単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全ての教科に合格していること。1, 2年次の履修時間(学科280時間以上、実習465時間以上、実務実習750時間以上、総時間数1800時間以上)を満たしていること。授業開始にあたり、出席を調査し出席簿に記録する。遅刻は当該授業を欠席とする。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科 1級整備士コース後期課程) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			顧客サービス業務	サービスマン、フロントマンとしての顧客対応技術を学び、最終的には問診、概算見積もり、応酬話法を習得させる。	2 ①	9.8		○			○		○		
○			特別講義Ⅰ	1級自動車整備士の筆記試験に合格すべく国家試験対策講義を行う。	2 ②	103.6		○			○		○		
○			特別講義Ⅱ	1級自動車整備士の筆記試験に合格すべく国家試験対策講義を行う。	2 ③	70.0		○			○		○		
○			電子計測	デジタル・マルチ・テスタ、オシロスコープ、メモリ・ハイコーダなど電子計測に必要な計測理論と作業について習熟する。	1 ①	28.8				○	○		○		
○			機械工作	旋盤、フライス盤を用いた鉄やアルミ材などの金属切削加工を行う。また、溶接技術も習得する。	1 ①	28.8				○	○		○		
○			エンジン整備	エンジン脱着作業と完全0/Hを行う。	1 ①	57.6				○	○		○		○
○			エンジン制御	エンジン電子制御装置に関する実際の制御方法を学ぶ。	1 ①	36.0				○	○		○		
○			シャシ制御Ⅰ	A B S、A Tに関する実際の制御方法を学ぶ。	1 ①	43.2				○	○		○		○
○			車体電装	整備要領書の配線図を用いて車両に関わる配線の整備作業を中心に行い、回路図の読解力と実際の配線作業に熟練する。	1 ①	36.0				○	○		○		
合計					9科目	413.8単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全ての教科に合格していること。1, 2年次の履修時間(学科280時間以上、実習465時間以上、実務実習750時間以上、総時間数1800時間以上)を満たしていること。授業開始にあたり、出席を調査し出席簿に記録する。遅刻は当該授業を欠席とする。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科 1級整備士コース後期課程) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			検査作業	小型車の車検整備作業を習熟する。	1 ①	43.2				○	○		○		
○			シャシダイナモ(2・4輪)	二輪車及び四輪車を用いてシャシダイナモの使用方法を学ぶ。	1 ②	43.2				○	○		○		
○			シャシ制御Ⅱ	EPSに関する実際の制御方法を学ぶ。	1 ②	21.6				○	○		○		
○			シャシ制御Ⅲ	オートエアコン、エアバッグに関する実際の制御方法を学ぶ。	1 ②	43.2				○	○		○		○
○			EV整備	電気自動車の構造・作動・整備作業について学ぶ	1 ②	21.6				○	○		○		
○			サービス業務	整備内容説明、問診を通してお客様への信頼度、満足度を向上させる接客対応・応酬話術技術を学ぶ。	1 ②	43.2				○	○		○		
○			大型車両整備	エアブレーキ、エアサスペンション等のエアコントロールと機械部分の構造・作動を学ぶ。	1 ③	36.0				○	○		○		
○			MC重整備	エンジン、サスペンション、フレーム等の整備を通して高難度の整備に対応できる技術を身につけさせる。	1 ③	36.0				○	○		○		
○			総合診断Ⅰ	1級自動車整備士に要求されるエンジン電子制御装置に関する診断作業を効率を高め実戦での即戦力性を高める作業を行う。	2 ①	86.4				○	○		○		
合計			9科目		374.4単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全ての教科に合格していること。1, 2年次の履修時間(学科280時間以上、実習465時間以上、実務実習750時間以上、総時間数1800時間以上)を満たしていること。授業開始にあたり、出席を調査し出席簿に記録する。遅刻は当該授業を欠席とする。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科 1級整備士コース後期課程) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			インターンシップ	企業内教育を通して、整備、受付、接客、問診、見積もり等より実践的な業務を社内でする。	2①	228.6				○	○	○			
○			定期点検整備	インターンシップで学んだ実践的な整備作業において個々人の技術目標を新たに設定、実践的な整備作業の技術向上を狙う。	2①	144.0				○	○	○		○	
○			エンジン特性試験	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの排出ガス特性、燃費特性、出力特性など様々なパラメータとの関連を学ぶ。	2②	28.8				○	○	○			
○			エンジン診断	エンジン電子制御装置に関する制御システムの不具合と故障の関連性を学ぶ。	2②	28.8				○	○	○			
○			シャシ診断Ⅰ	シャシ電子制御装置（ABS、AT）に関する制御システムの不具合と故障の関連性を学ぶ。	2②	28.8				○	○	○			
○			シャシ診断Ⅱ	シャシ電子制御装置（EPS、エアコン等）に関する制御システムの不具合と故障の関連性を学ぶ。	2②	28.8				○	○	○			
○			ハイブリッド車両整備	ハイブリッド車両の動力伝達機構について構造・作動を確認する。また、HVバッテリーへの充放電制御を学ぶ。	2②	36.0				○	○	○			
○			NVH診断	エンジン振動、ボディの振動、ステアリングの振動など不具合箇所の設定と故障診断を行う。診断には、振動分析機を使用する。	2②	36.0				○	○	○			
○			フロント業務Ⅰ	整備工場においてお客様の受け入れ、カルテの記入、問診、整備説明などの実践的な対応を学ぶ。	2②	36.0				○	○	○			
合計					9科目		595.8単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全ての教科に合格していること。1, 2年次の履修時間（学科280時間以上、実習465時間以上、実務実習750時間以上、総時間数1800時間以上）を満たしていること。授業開始にあたり、出席を調査し出席簿に記録する。遅刻は当該授業を欠席とする。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科 1級整備士コース後期課程) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			技術研究	卒業研究テーマを主体として、実車や教材で実験を行い、サービス・マニュアルにはない特性や法則を明確にする。	2 ②	115.2				○	○		○		
○			フロント業務Ⅱ	整備工場においてお客様の受け入れ、カルテの記入、問診、整備説明などの実践的な対応を学ぶ。	2 ③	28.8				○	○		○		
○			総合診断Ⅱ	1級自動車整備士に要求されるシャシ電子制御装置に関する診断作業を効率を高め実戦での即戦力性を高める作業を行う。	2 ③	100.8				○	○		○		
合計			3科目			244.8単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全ての教科に合格していること。1. 2年次の履修時間（学科280時間以上、実習465時間以上、実務実習750時間以上、総時間数1800時間以上）を満たしていること。授業開始にあたり、出席を調査し出席簿に記録する。遅刻は当該授業を欠席とする。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	14週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。